

令和5年度【大田区立東調布第一小学校・生活科 授業改善推進プラン】

◎ 小学校 生活科における分析

児童の実態	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活を振り返り、家族など多くの人々との関わりがあることに気付いている。 ・身近なものを使って遊ぶ楽しさや友達の作った物のよさに気付くことができる。 ・身近な植物や生物をじっくり見て、自分なりの発見をもつことができる。
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような遊び方をすると楽しいかを考えることができる。 ・活動や体験を通して、発見したこと・疑問に思ったこと・気付いたことなどを絵や作文にして表現することができる児童が多いが、苦手と感じている児童もいる。 ・友達との関わりを通して、相手を思いやり、感想をもつことができる。
	主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な動物や植物に対して、愛着をもって育てたり世話をしたりしている。 ・思いや願いをもち、楽しく活動できる。 ・自分の生活している地域や働いている人たちのことをもっと知りたい、交流したいと思っている。 ・身近な材料を用いて、素材を楽しみながら、楽しく活動をしている。

◎ 生活科の課題

- ◆入学前の経験や生活体験による個人差があるので、どの子も意欲的に活動できるような場を設定する。
- ◆工夫したことや考えたことを発表することや、文章や絵に表して友達に分かるように伝えることなど、自分の思いを表現する力を伸ばす手立てを工夫する。

◎ 生活科における昨年度の授業改善推進プランの検証

取組における成果◇と課題◆

- ◇花や野菜を育てたり、動物に触れ合ったりして、一人一人が興味、関心をもって生き物の不思議を考えようとする態度が育ってきている。
- ◇家庭や地域の方々との関わりながら昔あそびを楽しむことができた。
- ◇活動したことを学習カードにまとめて、気付きを伝え合う活動を多く取り入れることができた。
- ◇コロナの実態を考慮し感染症対策を十分に留意しながら、地域に出て学習する機会があった。
- ◆1年生の学校に慣れる段階では、今までも生活科と他教科の合科的な指導を行ってきた。しかし、なかなか馴染むことのできない児童もいるため、スタートカリキュラムを意識した指導の工夫を考えていく。
- ◆考える力を育てるために、繰り返しの体験活動に重点をおいた指導の工夫を考える。

◎ 生活科の具体的授業改善案

- 「とういちわくわくなかよしたい」では、身近な校庭や裏庭で自然集めをしたり、季節が変わるごとに校外に出かけて、季節の変化に気付かせたりするなど場の設定を工夫していく。
- 「とびだせ！町のたんけんたい」や「みんな生きている」では、家庭や地域の方々との関わりを通して、地域に興味・関心や愛着をもったり、様々な人を相手に自分の思いを表現したりできるよう場の設定を工夫していく。
- 活動内容をまとめたり、活動を振り返ったりする学習カードのよりよい活用方法を検討し、児童の気付きの質を高められるようにしていく。
- 思考ツールやタブレット等を活用し、考えを広げたりまとめたりすることを通して、児童一人一人の考えを深められるようにしていく。
- 2年生から3年生への進級を見据えて、社会科への繋がりも意識した学習内容を取り入れていく。社会科見学で同じ場所へ行く場合には、視点の違いや気付きの深まりが感じられるような工夫をしていく。